

平成27年度「日本遺産(Japan Heritage)」認定概要

① ◎水戸市（茨城県）・足利市（栃木県）・備前市（岡山県）・日田市（大分県）

※ ◎印は代表自治体（以下同）

《近世日本の教育遺産群 ―学ぶ心・礼節の本源―》

〈ストーリーの概要〉

我が国では、近代教育制度の導入前から、支配者層である武士のみならず、多くの庶民も読み書き・算術ができ、礼儀正しさを身に付けるなど、高い教育水準を示した。これは、藩校や郷学、私塾など、様々な階層を対象とした学校の普及による影響が大きく、明治維新以降のいち早い近代化の原動力となり、現代においても、学問・教育に力を入れ、礼節を重んじる日本人の国民性として受け継がれている。



【旧弘道館・足利学校跡・旧閑谷学校・咸宜園跡】

② ◎群馬県（桐生市，甘楽町，中之条町，片品村）

《かかあ天下―ぐんまの絹物語―》

〈ストーリーの概要〉

古くから絹産業の盛んな上州では、女性が養蚕・製糸・織物で家計を支え、近代になると、製糸工女や織手としてますます女性が活躍した。夫(男)たちは、おれの「かかあは天下」と呼び、これが「かかあ天下」として上州名物になるとともに、現代では内に外に活躍する女性像の代名詞ともなっている。

「かかあ」たちの夢や情熱が詰まった養蚕の家々や織物の工場(こうば)を訪ねることで、日本経済を、まさに天下を支えた日本の女性たちの姿が見えてくる。



【永井いと肖像画】

③ 高岡市（富山県）

《加賀前田家ゆかりの町民文化が花咲くまち高岡 一人、技、心》

〈ストーリーの概要〉

高岡は商工業で発展し、町民によって文化が興り受け継がれてきた都市である。高岡城が廃城となり、繁栄が危ぶまれたところで加賀藩は商工本位の町への転換政策を実施し、浮足立つ町民に活を入れた。鋳物や漆工などの独自生産力を高める一方、穀倉地帯を控え、米などの物資を運ぶ良港を持ち、米や綿、肥料などの取引拠点として高岡は「加賀藩の台所」と呼ばれる程の隆盛を極める。町民は、固有の祭礼など、地域にその富を還元し、町民自身が担う文化を形成した。純然たる町民の町として発展し続け、現在でも町割り、街道筋、町並み、生業や伝統行事などに、高岡町民の歩みが色濃く残されている。



【重伝建地区山町筋を巡行する高岡御車山】

④ ◎石川県（七尾市，輪島市，珠洲市，志賀町，穴水町，能登町）

《^{あか}灯り舞う半島 能登 ～熱狂のキリコ祭り～》

〈ストーリーの概要〉

日本海文化の交流拠点である能登半島は独自の文化を育み、数多くの祭礼が行われてきた。その白眉はキリコ祭りと総称される灯籠神事。夏、約200地区で行われ、能登を照らし出す。日本の原風景である素朴な農漁村で神輿とともに、最大で2トン、高さ15mのキリコを担ぎ上げ、激しく練り回る。祇園信仰や夏越しの神事から発生した祭礼が、地区同士でその威勢を競い合う中で独特な発展をし、そしてこれほどまでに灯籠神事が集積をした地域は唯一無二。夏、能登を旅すればキリコ祭りに必ず巡り会えると言っても過言ではなく、それは神々に巡り会う旅ともなる。



【能登のキリコ祭り】

⑤ ◎福井県（小浜市，若狭町）

《海と都をつなぐ若狭の往来文化遺産群～^{みけつくに}御食国若狭と鯖街道～》

〈ストーリーの概要〉

若狭は、古代から「^{みけつくに}御食国」として塩や海産物など豊富な食材を都に運び、都の食文化を支えてきた地である。

また、大陸からつながる海の道と都へとつながる陸の道が結節する最大の拠点となった地であり、古代から続く往来の歴史の中で、街道沿いには港，城下町，宿場町が栄え、また往来によりもたらされた祭礼，芸能，仏教文化が街道沿いから農漁村にまで広く伝播し，独自の発展を遂げた。

近年「鯖街道」と呼ばれるこの街道群沿いには，往時の賑わいを伝える町並みとともに，豊かな自然や，受け継がれてきた食や祭礼など様々な文化が今も息づいている。



【重伝建地区熊川宿】

⑥ 岐阜市（岐阜県）

《「信長公のおもてなし文化」が息づく戦国城下町・岐阜》

〈ストーリーの概要〉

戦国時代，岐阜城を拠点に天下統一を目指した織田信長。彼は戦いを進める一方，城内に「地上の楽園」と称される宮殿を建設，軍事施設である城に「魅せる」という独創性を加え，城下一帯を最高のおもてなし空間としてまとめあげる。

自然景観を活かした城内外の眺望や長良川での鵜飼観覧による接待。冷徹なイメージを覆すような信長のおもてなしは，宣教師



【岐阜城と鵜飼い観覧】

師ルイス・フロイスら世界の賓客をも魅了した。信長が形作った城・町・川文化は城としての役割を終えた後も受け継がれ，現在の岐阜の町に息づいている。

⑦ 明和町（三重県）

《祈る皇女齋王のみやこ 齋宮》

〈ストーリーの概要〉

古代から中世にわたり，天皇に代わって伊勢神宮の天照大神に仕えた「齋王」は，皇女として生まれながら，都から離れた伊勢の地で，人と神との架け橋として，国の平安と繁栄を願い，神への祈りを捧げる日々を送った。

齋王の宮殿である齋宮は，伊勢神宮領の入口に位置し，都さながらの雅な暮らしが営まれていたと言われている。

地元の人々によって神聖な土地として守り続けられてきた齋宮跡一帯は，日本で齋宮が存在した唯一の場所として，皇女の祈りの精神を今日に伝えている。



【齋宮跡】

⑧ ◎滋賀県（大津市，彦根市，近江八幡市，高島市，東近江市，米原市）

《琵琶湖とその水辺景観―祈りと暮らしの水遺産》

〈ストーリーの概要〉

穢れを除き，病を癒すものとして祀られてきた水。仏教の普及とともに東方にあっては，瑠璃色に輝く「水の浄土」の教主・薬師如来が広く信仰されてきた。琵琶湖では，「水の浄土」を臨んで多くの寺社が建立され，今日も多くの人々を惹きつけている。また，暮らしには，山から水を引いた古式水道や湧き水を使いながら汚さないルールが伝わっている。湖辺の集落や湖中の島では，米と魚を活用した鮒ずしなどの独自の食文化やエリなどの漁法が育まれた。多くの生き物を育む水郷



【八幡堀（近江八幡の水郷）】

や水辺の景観は，芸術や庭園に取り上げられてきたが，近年では，水と人の営みが調和した文化的景観として，多くの現代人をひきつけている。ここには，日本人の高度な「水の文化」の歴史が集積されている。

⑨ ◎京都府（宇治市，城陽市，八幡市，京田辺市，木津川市，宇治田原町，和束町，南山城村）

《日本茶 800 年の歴史散歩》

〈ストーリーの概要〉

お茶が中国から日本に伝えられて以降，京都・南山城は，お茶の生産技術を向上させ，茶の湯に使用される「抹茶」，今日広く飲まれている「煎茶」，高級茶として世界的に広く知られる「玉露」を生み出した。

この地域は，約800年間にわたり最高級の多種多様なお茶を作り続け，日本の特徴的文化である茶道など，我が国の喫茶文化の展開を生産，製茶面からリードし，発展をとげてきた歴史と，その発展段階毎の景観を残しつつ今に伝える独特で美しい茶畑，茶問屋，茶まつりなどの代表例が優良な状態で揃って残っている唯一の場所である。



【宇治茶の郷 和束の茶畑】

⑩ 篠山市（兵庫県）

《丹波篠山 デカンショ節 -民謡に乗せて歌い継ぐふるさとの記憶》

〈ストーリーの概要〉

かつて城下町として栄えた丹波篠山の地は，江戸時代の民謡を起源とするデカンショ節によって，地域のその時代ごとの風土や人情，名所，名産品が歌い継がれている。

地元の人々はこぞってこれを愛唱し，民謡の世界そのままにふるさとの景色を守り伝え，地域への愛着を育んできた。

その流れは，今日においても，新たな歌詞を生み出し新たな丹波篠山を更に後世に歌い継ぐ取組として脈々と生き続けており，今や300番にも上る「デカンショ節」を通じ，丹波篠山の街並みや伝統をそこかしこで体験できる世界が展開している。



【デカンショ祭】